

防災本部の訓練に係る評価項目の整理 (案)

1 評価項目の整理に係る考え方

防災本部の訓練に係る評価項目を整理するにあたっては、石油コンビナート災害が発生した際、防災本部をはじめとする防災関係機関等に求められる活動内容を把握する必要がある。災害の発生から進展を経て終息に至るまでの間の各フェーズにおいて、各防災関係機関等に求められる活動内容を具体的に抽出することができれば、それがそのまま評価項目になると考えられる。

活動内容を把握するためには、災害の想定を行う必要がある。しかし、多様な災害や複雑な災害を想定すると、活動内容が多岐に渡りすぎることから、評価したい活動内容に焦点をあてにくくなると考えられる。そこで、標準となる災害のシナリオ（以下「標準災害シナリオ」という。）を定め、そのシナリオに沿った活動内容を抽出することとする。

標準災害シナリオを定めるにあたっては、東日本大震災等実際に経験した災害を踏まえたものにするべきであるとする。よって、ここでは、東日本大震災の際に発生した千葉県市原市の石油コンビナート火災対応等を参考とし、過去の石油コンビナート災害事例や防災アセスメント指針等の内容も踏まえ、地震を発端として災害が発生し、進展していくシナリオを作成することとした。

さらに、シナリオから活動内容を抽出するにあたっては、より実戦的な内容とするため、過去の災害事例及び今年度アドバイザーが派遣される北海道、三重県及び和歌山県での防災訓練の内容やその評価結果等を踏まえるとともに、各防災本部が定めている防災計画についても参考にする。

このようにして抽出された活動内容を基に、防災本部の訓練に係る評価項目を網羅的に整理していく。（実際の訓練においては、その訓練目的に合わせてシナリオや評価項目を調整することとなる。）

2 評価項目の整理イメージ

